

《担当者名》下山 美由紀 m\_shimoyama@hoku-iryō-u.ac.jp

【概要】

痰の鼻腔内吸引を実地研修指導講師の指導の下、実地研修協力者の協力の基に、安全、安楽かつ効果的に手順に沿って実施できるよう研修をおこなう。

【学修目標】

1. 痰の鼻腔内吸引を実地研修協力者の協力の基に、以下の手順を20回以上、安全に実施することができる。
  - 1) 実施準備（指示の確認、手洗い、物品・器材の確認、物品・器材の配置）
  - 2) ケアの実施（説明、環境整備、吸引前の観察、手袋の着用、吸引実施、実施後の片づけ・声かけ・姿勢の整え・観察、手洗い）
  - 3) 報告（実施後の報告、ヒヤリハット・アクシデントの報告）
  - 4) 片づけ・物品管理
  - 5) 記録
2. 医師・看護職との連携体制について確認、実施することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	痰の鼻腔内吸引	実地研修指導講師の下、実地研修協力者に協力の基に、鼻腔内に貯留している痰を安全に吸引することができる。 要件として ・実施すべて手順通りに20回以上実施できる。 ・実施研修指導講師による評価を受け、20回以上クリアする。 研修にあたっては、実地研修協力者の基本情報等を確認するなど協力者を理解すること。 吸引に実施にあたっては、個別の留意点などを指導講師に確認をしながら、安全に実施すること。 医師・看護職との連携体制の確認とともに連携することができる。	下山

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

実地研修評価判定基準に則った評価であり、「1人で実施できる」と評価された場合で、以下を満たす場合に修了となる。

当該ケアにおいて最終的な累積成功率が70%以上であること。

当該ケアにおいて最終3回のケアの実施において不成功が1回もないこと。

【教科書】

最新介護福祉士養成講座15 「医療的ケア」 中央法規

【学修の準備】

実地研修にあたり、学内での自主的な演習等を通して手順の確認をするなど、研修に備えること。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2,1,4

【その他】

この科目は、「認定特定行為業務従事者」として認定証の交付を受け、医行為実施の資格を得るための研修となる。

【実務経験】

看護師

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、実践に即した教育を行う。